

日本緩和医療薬学会 緩和医療連携研修プログラム

研修コアカリキュラム [病院連携]

～ モデル事業 ～

1. 研修の目的

本研修は、緩和医療の知識やスキルに加え、地域連携のスキルを身につけることにより、患者の入退院時に他施設の薬剤師や多職種と連携をして円滑な入退院をコーディネートできる薬剤師を養成することを目的とする。

目的 A がん診療から緩和ケアにおいて質の高い情報共有による薬剤師連携を実施し患者とその家族に終末期をより穏やかに生活して頂くことを目的とする。

目的 B 地域医療における病院緩和ケアから在宅緩和ケアにおいて質の高い情報共有による薬剤師連携を実施し患者とその家族に終末期をより穏やかに生活して頂くこと、また多職種連携の実施にも取り組み薬剤師が薬物療法の中心を担うことより地域医療における「安心・安全」を提供することを目的とする。

目的 C 在宅緩和に関わる薬剤師のスタンダードモデルを構築することを目的とする。

2. 研修の到達目標

本研修では、患者が在宅緩和ケアに移行するまでの病院内における退院調整に至るまでのチーム医療の活動や退院調整に至るまでの病院内の活動について知ることを目標とし、在宅緩和ケアをよりシームレスに持っていくことを目標とする。

目標 A 病院が提供する診療情報を正確に把握すること

目標 B 病院で用意された医療提供体制について理解すること

目標 C 緩和薬物療法の基本的な薬の使い方を理解すること

目標 D チーム医療の中で多職種の役割を理解すること

目標 E 病院薬剤師の取り組む活動について理解をすること

3. 実施研修で習得する事項

研修者は研修病院の実地施設において、知識・技術・態度の習得を行う。

知識：実地研修中に習得した内容を説明できること

技術・態度：実地研修中に習得した知識を生かして、自施設の取り組みに活用できること。

- (ア)入院から退院まで、病院がどのような関わりで機能しているかを理解すること。
【目標 B：知識・技術・態度】
- (イ)入院時の関わりに関して診療情報内容（カルテ）から理解すること。【目標 A：知識】
- (ウ)入院現場で使用する言葉を理解し、共通言語として理解すること。【目標 A：知識】
- (エ)各職種（医師、看護師、退院調整ナースなど）の業務を理解すること。【目標 D：知識・態度】
- (オ)病院で処置される医療行為について理解する。【目標 B：知識】
- (カ)病院で使用されている医療材料・機器について理解を深める【目標 B：知識】
- (キ)薬の使い方を知る【目標 E：知識・技術】
なお、処方意図を理解すること（適応外使用について知る）、注射薬の使い方（投与方法、配合変化に対するアセスメントなど）なども含め
- (ク)麻薬の取り扱いが出来る。特に、ポンプ調整ができること【目標 C：知識・技術】
- (ケ)緩和ケアを取り組む薬剤師の役割を知る【目標 E：知識・技術・態度】
- (コ)地域連携に向けた取り組みを知る【目標 E：知識・技術・態度】
- (サ)患者・家族への対応について知る（薬局についての説明の仕方など）【目標 B：知識・技術・態度】
- (シ)退院前カンファレンスの対応について知る【目標 B：知識・技術・態度】

4. 研修終了までに習得すべき専門的知識【目標 C：知識】

研修者は、この実地研修の受講等の自己研鑽を通して、緩和医療の職務に必要な薬学知識・臨床知識を習得し、高度な倫理観を身につけることを目標とする。（緩和医療専門薬剤師養成 研修コアカリキュラム 第1版 を参考資料とする。）

以上

作成 令和4年1月15日